

「クリエイターの話 ～私のイメージの源泉」

スペースデザイン部会員 やま ざき あき ふみ
山崎 明史

『「空いた間」 空気の間隙の源泉』

私たちは日常の中で、「空間」という言葉を自然に使っている。

広い部屋、静かなカフェ、都市の路地、美術館の展示。

しかし、空間とは一体何なのだろうか。一般的には、空間とは「広さ」や「場所」のように捉えられることが多い。だが、本来の空間は、単に何もない場所を指す言葉ではない。

空間とは、“空いた間” だと考える。

例えば、一脚の椅子だけが置かれた部屋を想像してみる。

そこに椅子が存在することで、壁との距離が生まれ、床との関係が生まれ、人が立つ余地が生まれる。もし部屋の中に何も存在しなければ、私たちはその広がり意識することができないかもしれない。

つまり、空間は物と物の間に間が生まれる事によって、初めて空間と認識することができる。

これは非常に興味深い感覚であり、この感覚を作品に落とし込もうと試みているのが「空気の間隙」シリーズである。

複数の造形の配置と造形の形状、その奥に見える景色などを意識し空間を感じられる作品を目指している。

造形作品に限らず茶室における静けさも、建築における余白も、日本庭園の“抜け” も、すべては物そのものではなく、“間” を設計している。物を置きすぎれば圧迫感となり、逆に何もなさすぎれば意味を失う。重要なのは、どのような距離感で存在が配置されるかなのである。

空間は、「何かが存在しないこと」によって成立しているようでありながら、実際には「物同士の関係性」によって浮かび上がるものであると感じてからこの作品のシリーズを作り続けている。

空間とは、空いた間であり、その“間”こそが、人の感覚や感情を静かに動かしている気がする。

私はそんな「空間」を作ることを創作活動を通して追っているのかもしれない。



空気の隙間 2016



空気の隙間 2019



空気の隙間 2023

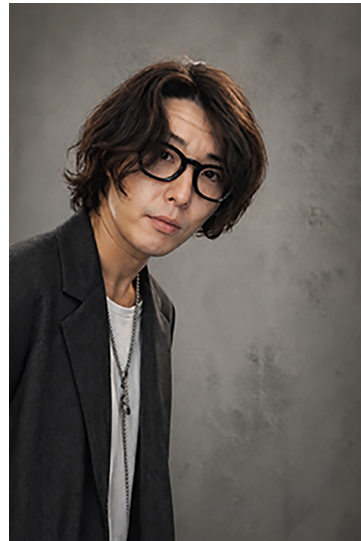
山崎 明史 プロフィール

Yamazaki Akifumi

1991年 東京生まれ

2013年 日本大学生産工学部 創生デザイン学科卒業

2015年 日本大学芸術学研究科造形芸術修了



○SD 通信 Vol. 72『クリエイターの話 ～私のイメージの源泉』山崎明史 編は如何でしたか。「間」という日本独特の感性に基づく概念は一言では中々説明し難いものとされていますが、山崎さんはその哲学的なテーマを造形作品を通じて追究されているのだと感じました。『空間とは、空いた間であり、その“間”こそが、人の感覚や感情を静かに動かしている気がする』という言葉が山崎さんの作品の佇まいと相まってとても印象的です。皆さんの感想も是非お聞かせください。

◆山崎明史さんの情報は新制作協会ホームページにも掲載されています。

→ <https://www.shinseisaku.net/wp/archives/31112>

◆SD 通信のこれまでのバックナンバーは協会ホームページに掲載されています。

過去に配信したシリーズ「私を創ってくれた3つの作品」のバックナンバー（Vol.1～35）もご覧いただけます。

→ <https://www.shinseisaku.net/wp/archives/26661>

◆第88回新制作展のSD部会場の様子が見れる <バーチャルパノラマツアー>

下記のアドレスからアクセスください。

→ <https://r93840544.theta360.biz/t/e3b09dbc-9430-11f0-b697-060182f6995f-1>

◆今年2月に建築会館ギャラリーで開催された『88th 新制作展 スペースデザイン部受賞作家展』の記録はこちらでご覧いただけます。

→ https://www.shinseisaku.net/wp/wp-content/uploads/2025/08/202688th_jyusyo-artist.pdf

合わせて<バーチャルパノラマツアー>もご覧ください。

→ <https://r93840544.theta360.biz/t/9d6c394e-fdb0-11f0-9f86-0a7fdda087bb-1>

◆新制作協会ホームページはこちらから。

新制作協会公式Instagram・新制作協会広報フェイスブックページが開設されました。TOPICS からSD部のホームページやSD部公式Facebookにもアクセスできます。

→ <https://www.shinseisaku.net/>